

## ◎景気ウォッチャー調査[2018年11月]

### 2018年11月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を1.4ポイント下回る50.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「前月まで高騰していた野菜価格が今月は安定しているが、予想以上に販売点数は伸びていない。さらに、暖冬の影響で鍋商材、特に豚肉ととり肉、おでんの材料の販売量が前年を割っており、現状の景気は下降基調である。」(スーパー)等の理由から、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.1ポイント下回る49.4となった。

企業動向関連は、「変わらない」の回答の割合が減少し、「コートやニットなどの防寒商品の引き取りが例年より遅く、余り寒くないので様子見の状態になっている。」(繊維工業)、「消耗部品等の売上は増加したものの、受注予定の製造装置の一部が取引先の都合により失注したので、利益ベースでは減益である。」(電気機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.7ポイント下回る50.0となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新卒採用がほぼ終了した企業が多いなか、継続して通年採用をしている企業が前年から増えている。新卒採用枠であっても新卒に限定せず、若年層の既卒者や第二新卒を含めて採用活動を行っている。」(求人情報誌製作会社)、「60歳以上の正社員採用を望む求人者も現れている。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.9ポイント上回る54.4となった。

	11月	10月	前月差
合計	50.0	51.4	-1.4
家計動向関連	49.4	51.5	-2.1
企業動向関連	50.0	50.7	-0.7
雇用関連 (参考値)	54.4	51.5	2.9

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を1.1ポイント下回る50.6となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」の回答の割合が減少し「客の購入姿勢は厳しく、売上確保が難しい状況が続く。」(商店街)、「消費税の引上げに伴う機器の入替え費用が重なり、かなりの負担となる。野菜価格の高騰で客の節約志向が高まるので売上の上昇も余り見込めない。」(スーパー)等の理由から、「悪くなる」「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.8ポイント下回る50.4となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「取引先との話の中で来月のボーナスの話題が出たものの、支給額は前年並みとのことであり、また、前年同期と比較した大型消費の話題はなかったため、先行きの個人消費に大きな変動はない。」(通信業)、「年末年始に企業の受注量と販売量は増加するが、その期間を外れると停滞期になるので総体的に変化はない。」(金融業)等の理由から、「変わらない」の回答の割合が増加したため、前月を0.8ポイント下回る50.7となった。

雇用関連は、「変わらない」「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「年末年始から年度末に向けて採用市場は活発になる。労働契約法や労働者派遣法の改正により正規雇用の希望は高まる。」(人材派遣会社)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を3.0ポイント上回る51.5となった。

	11月	10月	前月差
合計	50.6	51.7	-1.1
家計動向関連	50.4	52.2	-1.8
企業動向関連	50.7	51.5	-0.8
雇用関連 (参考値)	51.5	48.5	3.0